

平成 27 年 11 月 27 日 (日) 第 11 期アレルギー大学 研究実践講座

記念講演・研究実践報告

認定 NPO 法人 アレルギー支援ネットワーク

会場:名古屋工業大学 4号館 137 大会議室

午前の部 9:15 受付開始

9:30~10:30 研究報告

座長 漢人 直之 かんどこどものアレルギークリニック 院長

「急速経口免疫療法治療中の患児・保護者が望む治療のゴールとは
～治療の負担度、食生活調査を行って～」

あいち小児保健医療総合センター アレルギー科 栄養士 小島 友美

「小麦、卵、乳の加工によるタンパク質の相互作用とアレルゲン性の変化」

名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士前期課程 1 年 蟹江 悠紀

休憩 10:30-10:40

10:40~12:00 記念講演

座長 漢人 直之 かんどこどものアレルギークリニック 院長

「食物アレルギーの最新情報」

講師 宇理須 厚雄 氏

うりすクリニック 名誉院長

藤田保健衛生大学医学部 客員教授

食物アレルギーの患者さんが原因食品を誤食すれば種々のアレルギー症状が惹起されます。稀ですがアナフィラキシーのような死亡に至るような重症な症状を引き起こすこともあります。よって、原因食品の除去は基本的対応と言えます。しかし、除去は患者さんやその家族、さらには、園や学校のスタッフにも負担がかかる対応です。除去食の目標は、安全確保、十分かつバランスのとれた栄養、食の QOL の確保です。これらを担保するためには、家庭、園・学校など場面ごとでその対応は異なるべきです。家庭では必要最小限の除去を目指しますが、正確な原因食品の診断が前提です。さらに、原因食品でも安全量までは摂取する部分除去が目標です。このためには、個々の患者さんに合った具体的な摂取可能食品や摂取量の指導が必須です。園・学校では、家庭とは異なり、安全かつ QOL 向上を目指す対応が求められます。本講演では、これらの最近の動向を解説します。

13:00~14:30 記念講演

座長 伊藤 浩明 あいち小児保健医療総合センター 副センター長兼総合診療科部長

「環境アレルギーとどう向き合うか～環境整備から免疫療法まで～」

講師 岡藤 郁夫 氏

神戸市立医療センター中央市民病院 小児科

気管支喘息(BA)やアレルギー性鼻炎(AR)の患者さんの多くはダニに感作されている。BA/AR をしっかりと治すためには、薬物療法で十分に疾患コントロールをつけた上で、長期的戦略としてダニといかに向き合うかが重要であり、一般的な環境整備だけでなく、ダニ免疫療法(アレルギーが起きない程度の量のダニエキスを体に入れることでダニに対するアレルギーを起させなくする治療)も注目されつつある。この度はダニ免疫療法を機会に BA と向き合うことができた前思春期の女兒の話の元に、皆様と一緒にダニ対策を考える機会となれば幸いである。

休憩 14:30-14:40

14:40~16:40 研究実践報告 (各15分 質疑応答含む)

座長 伊藤 浩明 あいち小児保健医療総合センター 副センター長兼総合診療科部長

1. 「こども園における食物アレルギーの対応と課題」 安藤 悦子
2. 「食物アレルギーを持つ親の会をサポートして」 鈴木 幸恵
3. 「トライ!トライ!トライ!
～より安全でより安心なより美味しいアレルギー対応食へ～」 中田 小百合
4. 「学校給食における食物アレルギー対応について」 仲宗根 朝子
5. 「災害への備え、今できること、すべきこと」 吉川 寛子
6. 「食物アレルギーに対応した
テーマパーク・フェスティバルの運営・企画」 吉田 光佳